

地域を支える 変える 高知大⁹
2024年 創立75周年



四万十市下田の養殖場 (2016年撮影)



海底に潜り海藻を採取する 田中幸記さん(東洋町甲浦)

技術専門職員

田中幸記さん(44)

海洋生物研究教育施設を利用する研究者や学生を手伝っています。技術職員は3人いて、9年目の私がリーダー。平岡先生ら大学全体で約30人を支えています。

仕事は研究で使う海藻や魚介類の採取、調査や観測。飼育設備のメンテナンスや調査船の操船もしていて、天候が良ければ1週間連続で船を出すことも。浦ノ内湾なら海底の地形まで頭に入れていきます。

もともと平岡先生の下で海藻を研究

潜水、操船で研究者を支え

して、2013年に博士号を取得しました。その時は、5年ほどかけて県内の海岸線700、2401地点に潜り藻場の状態を調べました。過去の記録と比較し、温暖化による生育状況の変化を明らかにした論文は国際学会で高い評価をもらうことができました。今も観察を続けています。

今回、ヒトエグサ養殖で平岡先生が発見した新技術を知った時は「さすが先生」と誇りしかつたですね。特許申請までの数ヶ月、再現実験をサポートしましたが、経験が生かされたのはうれしかったです。フィールドに常駐する研究者でもあるので、より実践的なサポートができませんが、勉強です。

来年には施設に海藻培養の温室が新設され、調査船も新しくなります。施設は国立なので、研究教育目的なら一般利用も可能です。興味がある方はぜひ一度、ご相談ください。



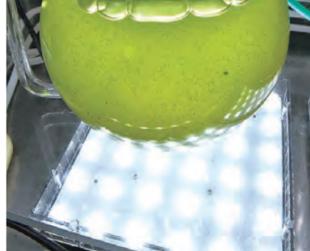
総合研究センター海洋生物研究教育施設 平岡雅規教授

2億年超前のアオサ復元!?



抹茶状態となった培養液

高知大学総合研究センター海洋生物研究教育施設(土佐市宇佐町)の平岡雅規教授(56)が、養殖アオサノリ(ヒトエグサ)の収量を大幅に増やす画期的な新技術を開発した。実は、瓢箪から駒の発見。きっかけは「興味本位で始めた」基礎的な研究にあったという。(1面参照)



慌てて写真を撮影した。アオサは全長50センチにもなる、複雑な高い海藻だ。それがプラスチックの「極めて原始的な姿に戻っていた。微細な藻類の増殖方法である単細胞分裂を繰り返していった。

「何度も再現実験を繰り返したが、同じ抹茶状態が生まれた。さらに今度は、この細胞に海中のバクテリアを加えると一気に伸び始めた。四万十川のアオサ養殖を救う技術になると確信した。

この技術について、藻類を研究する河野重行・東京大学名誉教授は「将来的に食料問題が出てきた時、非常に重要な技術となる」と評価している。

さらに平岡教授は、何より科学者として、この発見には大きな意義を感じたという。原始の生物は単細胞。おそらくヒトエグサの先祖も、単細胞で分裂を繰り返していたと推測できる。それがどこかの時点で海中細菌の助けを借りて多細胞化し、体を大きくする方向にかじを切ったのだと思う。

発見の興奮に身を震わせながら続ける。「プラスチック内でできた単細胞は、成長過程にはないもの。自然界で存在しない細胞が生まれた。少なくとも2億年以上前の姿に戻ったのではないか」

これについて陸上養殖を行う理研食品の佐藤陽一・原料事業部長も「事業の成果もそうだが、何よりロマンがある。学界を驚かせる論文ができるのではないかと今後に期待する。

平岡教授が海藻の研究を始めて約30年。今回が一番の発見という手応えがある。

「こんなことが起きるなんて考えもしませんでした。世界に向けて見立ての正しさを証明するため、論文の準備を進めている」

経営理念は「薄利多売」



高知市曙町1丁目8の25、午後6時～午前0時、不定休、電話は090・3783・5962。(学生広報スタッフ・浦崎晃生=人文社会科学部3年)

居酒屋さわ

朝倉キャンパスの学生が飲みに行くとき、必ず名前が挙がる人気店です。開業して14年。正門から東に3分歩いた電車通り沿いにあり、僕はアルバイトとして働いています。

メニューは豊富で、トントロレタス炒め(500円)や牛肉生春巻き(1個170円、3個から)などが昔からの定番です。料理をサービスすることもあり、飲み放題は1700円! 学生の利用が多いため、経営する細川譲司さん(61)の理念は薄利多売。「何度も足を運んでもらいたい」の思いが込められています。

マスターの人柄の良さも店の魅力。お客さんと会話を楽しみ、場を盛り上げる話術があります。店にはマイクがあり、お客さんの退店時は「またのご来店、お待ちしております」といい声でアナウンス。カップルには「お幸せに」。卒業生も飲みに来るほどで、マスターの優しさが「さわ」の愛される秘訣だと思います。

インカレ優勝目指す



遠征先の福岡市で撮影したサッカー部

体育会サッカー部

私たちサッカー部には創部50年以上の歴史があり、現在100人近くの部員が在籍。「自覚・責任」「地域貢献」「フェアプレー」を基本理念に掲げています。今シーズンのスローガンは「戮力協心」。チーム全体はもちろん関わってくださる全員の思いを力にして目標を達成するという気概を込めています。

昨シーズンは夏の総理大臣杯に出場しましたが、順天堂大学に0-3で大敗しました。今年はその悔しさをばねにして練習しており、インカレでの優勝に向けてまずは四国制覇を目指して日々頑張っています。

毎週月・水曜には朝倉キャンパスで子ども向けのサッカー教室、地域の保育園や幼稚園で巡回指導を行っています。さらにスポンサーの高知銀行と協力して県内各地でも教室を開いており、サッカーの裾野を地道に広げています。

ホームページなどに活動を掲載しています。応援よろしくお願ひします。

(主将・松本賢士=人文社会科学部4年)

◆次回から第4火曜日に掲載します

高知大学 × 高知新聞 共同編集